

7月11日

燃え尽きない柴

出エジプト記3章1～14節

3:1 モーセは、ミデヤンの祭司で彼のしゅうと、イテロの羊を飼っていた。彼はその群れを荒野の西側に追って行き、神の山ホレブにやって来た。

3:2 すると【主】の使いが彼に、現れた。柴の中の火の炎の中であった。よく見ると、火で燃えていたのに柴は焼け尽きなかった。

3:3 モーセは言った。「なぜ柴が燃えていかないのか、あちらへ行ってこの大いなる光景を見ることにしよう。」

3:4 【主】は彼が横切って見に来るのをご覧になった。神は柴の中から彼を呼び、「モーセ、モーセ」と仰せられた。彼は「はい。ここにおります」と答えた。3:5 神は仰せられた。「ここに近づいてはいけない。あなたの足のくつを脱げ。あなたの立っている場所は、聖なる地である。」

3:6 また仰せられた。「わたしは、あなたの父の神、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である。」モーセは神を仰ぎ見ることを恐れて、顔を隠した。

3:7 【主】は仰せられた。「わたしは、エジプトにいるわたしの民の悩みを確かに見、追い使う者の前の彼らの叫びを聞いた。わたしは彼らの痛みを知っている。 3:8 わたしが下って来たのは、彼らをエジプトの手から救い出し、その地から、広い良い地、乳と蜜の流れる地、カナン人、ヘテ人、エモリ人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人のいる所に、彼らを上らせるためだ。 3:9 見よ。今こそ、イスラエル人の叫びはわたしに届いた。わたしはまた、エジプトが彼らをしいたげているそのしいたげを見た。

3:10 今、行け。わたしはあなたをパロのもとに遣わそう。わたしの民イスラエル人をエジプトから連れ出せ。」 3:11 モーセは神に申し上げた。「私はいったい何者なのでしょう。パロのもとに行つてイスラエル人をエジプトから連れ出さなければならぬとは。」 3:12 神は仰せられた。「わたしはあなたとともにいる。これがあなたのためのしるしである。わたしがあなたを遣わすのだ。あなたが民をエジプトから導き出すとき、あなたがたは、この山で、神に仕えなければならない。」

3:13 モーセは神に申し上げた。「今、私はイスラエル人のところに行きます。私が彼らに『あなたがたの父祖の神が、私をあなたがたのもとに遣わされました』と言えば、彼らは、『その名は何ですか』と私に聞くでしょう。私は、何と答えたらよいのでしょうか。」

3:14 神はモーセに仰せられた。「わたしは、『わたしはある』という者である。」また仰せられた。「あなたはイスラエル人にこう告げなければならない。『わたしはあるという方が、私をあなたがたのところ遣わされた』と。」

今礼拝ではアブラハムの生涯と信仰を学んでいます。先週は、ロトとその一族がエラムの王ケドルラオメルの上ドム攻略に巻き込まれて財産を奪われ、一族は捕虜となってバビロンの方に連行されて行きました。

アブラハムは戦争に巻き込まれない高台のヘブロンで天幕を築き、祈りの生活をしていましたが、そこへロトが連行された知らせが入ってきました。

この知らせを聞いてアブラハムの心の中は
いかがでしたでしょうか。

助けに行くべきか、
放っておくか、
アブラハムは悩んだ。

助けたい、助けるべきだ。

ロトは甥、神の家族。

クリスチャンは愛に生きるべき
回りに未信者がたくさんいる、
本当の兄弟愛を証しするべき時

しかし、ケドルラオメルは世界最強の国、
数万の軍事力、
迎えるアブラハムの兵士は318人、
しかも本物の兵士ではなく普段は羊飼いです。
勝利ができるわけではない。

ロトは神様の約束の地を捨てて、
祭壇も築かずに

罪の蔓延しているソドムの近くに行ったので
この戦に巻き込まれてしまった。

おまけにお世話になったおじさんの
アブラハムを差し置いてさっさと
すきな所へ行ってしまった。

自業自得、身から出たさび、自己責任に生き
たらいい。

アブラハムの心にいろいろな思いが沸き上がってきました。

最終的に、祈りの中でアブラハムは決断をしました。

ロトを助けよう。

たった318名の兵士しかいない、
でも信仰を持って戦いに行こう。

友のために命を捨てる、
これより大きな愛は誰ももっていない。

イスラエルの最北部のダンというところで
宿営を張って勝利に酔いつぶれている
エラム王国のケドルラオメル軍の兵士ども。

わずか318名のアブラハムの家来の夜襲に驚
き、大軍が襲ったと勘違いして、
取る物とりあえず、エラム目指して敗走をしまし
た。

ギデオンは300人の兵士が壺を割り、関の声を
上げた時、ミデアンの大軍は敗走しました。

アブラハムはロトを救い出し、奪われた財産をすべて取り戻しました。

その時

シャレムの王、メルキゼデクがパンとブドウ酒をもってアブラハムを迎え、アブラハムはパンとブドウ酒をいただき、戦利品の十分の一をメルキゼデクに献げました。

今までアブラハムは祭壇を築いて
子羊を全焼のいけにえとしてささげていました。
祭壇を築いて祈ることの意味をアブラハムはど
れだけ深く知っていたのでしょうか。

ささげる、自分の生まれ故郷への愛着心をささ
げる。

父の家をささげる、父の家への依存心、執着心
をささげる。

口トと平和に生きるために、選択の優先権をさ
さげてきました。

さらに捕縛されているロト救出のため、
家来をささげ、自分のいのちさえささげなければ
ならない覚悟、祈りの決断で戦に向かい大勝
利をえました。

ここでは自分のいのちさえもささげる決断と
大いなる奇跡的な勝利の経験でした。

この決断と大勝利の後、シャレムの王
メルキゼデクとの出会いがありました。

パンとブドウ酒をいただき、
十分の一をささげる交わりがありました。

この交わりにはどんな意味が、
どんな目的があるのでしょうか。

ヘブル書を読みますと
メルキゼデクはイエス様のひな型と書かれていま
す。

アブラハムはイエス様のひな型の
メルキゼデクと出会って、交わっています。

この交わりでアブラハムはどんな
祝福を受けたでしょうか、
救い主に関するどんな知恵や知識を
受けたのでしょうか。

イエス様のひな型の
メルキゼデクとの出会いから、
①救い主、メシヤなる神はいつも
ともにいてくださる、どんな時も見放さず、
見捨てないインマヌエルの神、
神は共にいてくださることを身をもって学びまし
た。

②318人で戦っている時も

万軍の主なる神様が先頭で戦ってくださる
事実も学んで行きました。

ギデオンは300人の兵士でミデアンの大軍を撤
退させました。

梶原景時は富士川の合戦で、早朝数名の部
下と様子を見に行く時、何万羽の水鳥が驚い
て大騒ぎして一斉に飛びだった時、

平維盛は大軍の来襲と間違っって食料、武器を
そのままに敗走

③犠牲を覚悟してでも助けようとした祈り、
信仰の決断を祝福するためにメルキゼデクは来
ました。

パンとブドウ酒は罪の結果サタンに捕らえられた
私たち人類をサタンから救い出すために十字架
で血潮を流して救い出してくださるイエス様の救
いを教える素材。

神様は私たちが危機の時、
神様のお姿、救いの計画を見せてくださいます。

アブラハムから500年ほどたった時、
エジプトに奴隷となっているイスラエルの民を救
い出せと神様はモーセにお語りになりました。

モーセはエジプトの王子として育てられ、
ある時自分の生まれが奴隷のイスラエル人である
ことを知らされた時、

義侠心からイスラエル人を救おうと立ち上がりましたが、
イスラエル人はだれ一人ついて行きませ
ん。

失意の中でミデアンに逃れ40歳から80歳まで
ミデアンの野原で羊飼いをしていました。

モーセ80歳になって、人生の夕暮れ時に、
40歳から80歳まで静かにミデアンの荒野で羊
飼いの仕事をしている時、
モーセ、モーセと神様の声がかかり、
奴隷となっているイスラエル人を救い出せ、と神
様からの命令が下ります。

3:10 今、行け。わたしはあなたをパロのもとに遣わそう。わたしの民イスラエル人をエジプトから連れ出せ。」

モーセはお断りします。

3:11 モーセは神に申し上げた。「私はいったい何者なのでしょう。パロのもとに行ってイスラエル人をエジプトから連れ出さなければならないとは。」

モーセが40歳の時、若気の至りで、
また感情的になって義侠心で
救出しようとしたが
ユダヤ人の方から

2:14 するとその男は、「だれがあなた
を私たちのつかさやさばきつかさにした
のか。あなたはエジプト人を殺したよう
に、私も殺そうと言うのか」と言った。

40歳の時にもできなかった、ユダヤの人がついて来てくれなかった。

まして80歳になっての今、
不可能です。とモーセは告白。

モーセは神に申し上げた。「私はいったい何者なのでしょう。パロのもとに行ってイスラエル人をエジプトから連れ出さなければならぬとは。」

ととてもとてもできません。

神様はさらに語ります。

3:12 神は仰せられた。「わたしはあなたとともにいる。これがあなたのためのしるしである。わたしがあなたを遣わすのだ。あなたが民をエジプトから導き出すとき、あなたがたは、この山で、神に仕えなければならない。」

3:13 モーセは神に申し上げた。「今、私はイスラエル人のところに行きます。私が彼らに『あなたがたの父祖の神が、私をあなたがたのもとに遣わされました』と言えば、彼らは、『その名は何ですか』と私に聞くでしょう。私は、何と答えたらよいのでしょうか。」

3:14 神はモーセに仰せられた。「わたしは、『わたしはある』という者である。」また仰せられた。「あなたはイスラエル人にこう告げなければならない。『わたしはあるという方が、私をあなたがたのところに遣わされた』と。」

モーセが、神様、あなたのお名前は何ですか、
あなたはどんなお方ですか、と尋ねています。神
様を親しく、人格的に知ろうとしています。私た
ちの人生の目的は神様を知ることです。

モーセも神様、あなたはどんなお方ですか、と必
死でお尋ねしています。

アブラハムがケドルラオメルの大軍に勝利をして、ロトを連れ帰った時、
シャレムの王メルキゼデクが
パンとブドウ酒をもってアブラハムをお迎えしました。アブラハムは自然にパンとぶどう酒を受け取っています。メルキゼデクにあなたは誰ですか、なぜパンとぶどう酒をもって来たのですか。これはなんの意味ですか、などと全く尋ねていません。

アブラハムとメルキゼデクとは以前に出会っていると
思われます。知らない王に戦利品の十分の一をささげる意味は全くありません。

知り合いでなければこんなスムーズなやり取りは不可能です。

ではどこでアブラハムとメルキゼデクとは出会っているのでしょうか。

たった318人の家来を率いてケドルラオメルの大軍に向かっていかなければならない、苦渋の祈りをしている時、

自分が死んでも殺されてもロトを助けに行こう、と必死で血の汗を流して祈っている時に、幻の中で、イエス様が現れ、あなたが血を流すときはわたしが血を流してあげるよ、あなたの体が裂かれる時、わたしがあなたに代わって切られてあげよう。

苦しみの祈りの中で現れ、語ってくださった。
モーセも民を救い出す、大きな大きな自分の力
ではとてもできない、苦痛の悲鳴の祈りの中で、
わたしはある、あなたとともにあるものだ、あなた
の口とともにある、だから恐れなくて行きなさい。

自分の力では何もできない。自分に頼らないで
神様に必死で頼ろうとしている時に、
神様はアブラハムに、モーセにご自身を表して
下さり、語って下さいました。

現代に生きる私たちにも必死で祈っている時に
ご自身を現わし、語ってくださいます。

今日は

みことばを通してご自身を現わし、ご自身の
臨在、愛、慈しみ、御力を現わしてくださいま
す。

安心して主に従って行きましょう。

みことばを通して語ってくださる主、ご自身を現
わしてくださる主は、

個人で聖書を読む時に語ってくださいます。

また、主の日の礼拝の中で、

また聖餐式の中で、語ってくださいます。

毎週の礼拝を楽しみ、期待して礼拝の民となっ
ていきましょう。

祈り